

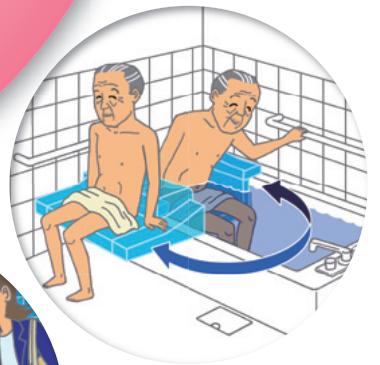


平成28年度

# 介護ロボット導入 好事例表彰事業

～介護ロボットの普及と利用促進に向けて～

## 受賞案件紹介



# ガイドブック

**主催** 公益財団法人テクノエイド協会、厚生労働省

**協力** 公益社団法人全国老人福祉施設協議会、公益社団法人日本介護福祉士会  
公益財団法人介護労働安定センター、高齢者住宅経営者連絡協議会  
一般社団法人日本福祉用具供給協会

<http://www.kaigo-robotaward.jp/>

# 介護ロボット導入好事例表彰事業について

「介護ロボット導入好事例表彰事業」は、介護ロボットの普及・定着に向けて、介護事業者および開発メーカー、自治体、流通事業者や普及支援機関まで幅広く対象として表彰します。

## 1. 事業の目的

高齢化の進展に伴い介護費用の増加や人材の確保、職員の腰痛、認知症高齢者や老々介護世帯の増加等への対応が喫緊の行政課題となっています。

こうした中、政府が掲げた「日本再興戦略」に基づき、ロボット技術を介護の分野で活用すべく、介護ロボットの開発実用化に向けた取り組みがなされているところであり、厚生労働省と経済産業省が連携して特定した、重点的に開発する分野のロボットも続々と商品化されているところでもあります。

また、平成27年度より、医療介護総合確保基金を活用した介護ロボット導入支援事業及び、補正予算においては、介護ロボット等導入支援特別事業を活用することにより、介護の現場では、介護ロボットの導入が進められているところでもあります。

しかしながら、商品化された介護ロボットを活用した介護技術については、まだまだ開発の途上であり、十分に確立されていない状況にあります。

こうした背景を踏まえ、本事業では、介護ロボットの適切な利用を促すための事業者及び開発メーカー等の意識啓発に資することを目的として実施するものです。

## 2. 事業の名称

介護ロボット導入好事例表彰事業

## 3. 主催・協力

<主催>公益財団法人テクノエイド協会  
厚生労働省

<協力>公益社団法人全国老人福祉施設協議会、公益社団法人日本介護福祉士会、  
公益財団法人介護労働安定センター、高齢者住宅経営者連絡協議会、  
一般社団法人日本福祉用具供給協会

## 4. 応募資格者

応募対象となる機関及び行政、事業者等については、以下のとおりとなります。

- (1) 効果的に活用している施設・事業所
- (2) 地域で高齢者の見守りを支援する事業を実施している行政
- (3) 介護現場のニーズを上手に採用したメーカー
- (4) 利活用の裾野を広げた、流通事業者又は普及支援機関 等

## 5. 今回表彰する部門

### (A) 事業者部門

: 効果的に活用している施設・事業所 (在宅サービスも含む)

### (B) 行政部門

: 見守り支援機器等を上手く活用している市町村

### (C) メーカー部門

: 介護現場のニーズを上手に採用したメーカー

### (D) 流通・普及支援部門

: 利活用の裾野を広げた流通事業者又は普及支援機関

## 6. 分野

- (1) 移乗支援（装着・非装着）
- (2) 移動支援（屋外・屋内）
- (3) 排泄支援
- (4) 認知症見守り支援（施設・在宅）
- (5) 入浴支援
- (6) その他

その他には、介護者の負担軽減や高齢者等の自立支援、機能訓練等に資する下記の分野の機器を含むこととする。  
機能訓練支援、服薬支援、認知症セラピー支援、食事支援、介護業務（掃除・洗濯・調理・記録等）等

## 7. 募集対象介護ロボット

既に商品化されており、介護現場での実用的な導入販売等の実績を有する下記の要件を満たすものとします。

**目的要件**（以下のいずれかの要件を満たすこと。）

- ・心身の機能が低下した高齢者の日常生活上の便宜を図る機器
- ・高齢者の機能訓練あるいは機能低下予防のための機器
- ・高齢者の介護負担の軽減のための機器

**技術要件**（以下のいずれかの要件を満たすこと。）

- ・ロボット技術（※）を適用して、従来の機器ではできなかった優位性を発揮する機器  
（※）①カセンサーやビジョンセンサー等により外界や自己の状況を認識し、②これによって得られた情報を解析し、③その結果に応じた動作又は出力を行う
- ・技術革新やメーカー等の製品開発努力等により、新たに開発されるもので、従来の機器では実現できなかった機能を有する機器又はシステム

**導入実績要件**（応募する部門によって異なる。）

- ・応募時点において、商品化されている介護ロボットとし、かつ一定台数以上の導入や利用、販売の実績等を有すること

## 8. 表彰位

### ◆最優秀賞

全応募案件のうち、単に介護ロボットの利用というだけではなく新たな、次世代の介護を実現したと認められる介護ロボットあるいは介護ロボット活用普及団体等に対して交付します。

### ◆優秀賞

社会的なモデルとなるものであり、各部門で最も優秀とされる団体等に対して交付します。

### ◆好事例賞

介護ロボットの普及・定着や適切に利用、さらには介護ロボットを活用した介護技術の開発等に寄与した団体等に対して交付します。

## 歩行ロボットでプラトリーハビリテーションを面白くする

## 医療法人つる舞会さくらクリニック 通所リハビリテーション『ユートピア』



【装着・設定は2分程度 慣れると速くできます】

## 歩行ロボット（HWA）との出会い

当施設では、本田技研工業株式会社の歩行アシスト（以下HWA）を2013年11月から導入使用しています。通所リハビリの利用者様、なかでも脳卒中片マヒの慢性期リハビリテーションは変化に乏しくなりがちです。サービス提供者として、いつも目新しいものを探していました。そんな時、2013年9月に、横浜の市民講座でHWA説明会に偶然出会いました。当初は、日本全国で50セット限定の有償モニターでした。ぜひ利用者様に使って頂きたいと考え、本田技研工業さんの電話番号もわからないところから始めて、メールをやりとりし、何度もアタックしモニターにこぎつけました。現在は、商品化されたHWAを1台レンタルし、1日20人前後の利用者様に使用しています。

HWAは開発時点では脳梗塞後遺症の方を想定して作られました。現在は、歩行能力が低下した方や、整形外科の手術後などさまざまな疾患に対しても効果があるか、エビデンスを構築すべくデータの収集を継続しています。現場の実感としては、歩行リズムを矯正する効果もあることから、パーキンソン病や小脳疾患の歩行改善にも可能性が見い出せると思います。

## 歩行改善してデータになり、グラフ化・見える化できる

当施設では、従来の運動療法、物理療法、徒手による手技療法に加えてHWAによる歩行訓練、ステップ訓練を行っています。HWA使用では、スタッフの手では困難な運動療法アプローチが可能で、改善した効率的な歩行が維持されます。また、歩行が見える化されます。歩数、歩行時間だけでなく、股関節可動域（屈曲・

伸展）、左右差を角度やグラフをタブレットですぐ確認できます。過去のデータとの比較も容易で、利用者様のやる気を上げることができています。1台の導入で、複数の利用者様に対して、よりよい歩容の改善につなげています。

一方で、HWAが利用者様に受け入れられないこともあります。歩行が矯正される為、従来の歩き方ができず不安に感じ、使用を中断することもあります。しかし、HWAの特性として、使用しない間も歩容改善が進むので、再使用して、効率よい歩行を習得される方もいます。その為にはHWAが適用的なのか、最適な設定なのか、歩行を正確に観察し、見極めるスタッフの実力が問われます。HWA導入を嫌がられても、時機を見ながら再度、再三おすすめてくれる観察眼や粘り強さ、提案力、機器を使う手間を、面倒がらないスタッフの姿勢が大切です。介護ロボットが介在しても、利用者様とスタッフとの基本的な信頼関係が必要です。

## 介護の現場から、日本発の未来産業創出！

HWA導入等、サービスの質は当施設の評判を高め、人気施設になっています。現在は、HWAの商品化や、効果的な使用法のマニュアル作成に向けて、産学官共同研究に参画しています。他施設の医療介護スタッフと研鑽を積み、最先端の研究者、技術開発者ともやりとりし、非常に有用な異業種交流をしています。有名なアザラシロボット「パロ」は、使用マニュアルこそ世界的に高価値であるということ踏まえ、スタッフはじめ利用者様たちも、種々のデータが日本の未来産業や知的財産を創生しているという自負を持っています。日々のリハビリが社会貢献である誇りを持つ付加価値は、他には類を見ない実績だと思います。



【どんどん歩いて あちこち行くぞ 俺についてきな！】

## お問合せ先

【事業者名/自治体名/社名/団体名】  
医療法人つる舞会さくらクリニック

【住 所】 〒374-0077  
群馬県館林市木戸町596-1

## 【担当所属・氏名】

通所リハビリテーション『ユートピア』  
須永 光徳 野口 亜希子 松浪 真吾 柿沼 貴子 半田 開

【電話番号】 0276-72-3890

【E-mail】 sp5b2vy9@view.ocn.ne.jp